



令和8年（2026年）1月7日	
所 属	文化振興課
所属長	苅田 昭憲
電 話	06-6489-6385

A-LAB Exhibition Vol. 50 碇栂奈個展 「あれどもあらずあらずともある」を開催

1 趣旨

尼崎市が運営するアートスペース「A-LAB」（えーらぼ）において、日本画アーティストの碇栂奈による個展「あれどもあらずあらずともある」を開催します。

碇栂奈は、現世と常世の融合を研究・制作のテーマに、幽霊を始めとしたあわいに漂う“見えるけれど、見えない存在”の表現を探求しています。「あわい」とは、境界のあいだに生まれる曖昧で移ろう状態を指します。透過素材や反射素材、寒天引きによって生まれる虹色の輝きといった現象を用い、あわいに漂うものたちの“そこにいるようでいない、いないようでそこにいる”という曖昧な存在感を描き出します。

展覧会では作品のほか、日本画をより知ることのできる絵具他の材料および模写作品も展示します。ぜひ会場でお楽しみください。

2 概要

展示名：碇栂奈個展「あれどもあらずあらずともある」

会 期：令和8年（2026年）2月7日（土）～3月29日（日）

会 場：A-LAB（尼崎市西長洲町2-33-1）

入場料：無料

時 間：午前10時～午後6時 ※休館日：火曜日

開催趣旨：

古来日本の幽霊はこの世への情念を映し出す存在であり、怪談が創造され、形象を与えられてきました。尼崎ゆかりの近松門左衛門は人形淨瑠璃に怪談を生かし、人間の情念を巧みに描写します。幽霊が描かれてきた歴史には、目に見えない存在に託した人々の思いがありました。本展で紹介する碇栂奈は、現代における幽霊の表現を探求しています。日本画材、とくに白色顔料と透過素材を用いた表装の研究、そして自己への理解を深めることで描く対象を顕らかにしてゆく試みです。日本画を継承し、古典の世界に詰め込まれた人々の営みを今に生かせるかは、私たち次第かもしれません。本展が私たちにとって見えていないもの、見ようとしてこなかったものを顧みる機会になることを願います。

3 関連イベント

《トークイベント》

松平莉奈氏（画家）をゲストに迎え、出展作家と「日本画における古典の定義」について話をします。

日 時：3月14日（土）午後2時～3時30分

定 員：先着20名

申込方法：メール（amalove.a.lab@gmail.com）で「イベント名、氏名、電話番号、人数」を明記してください。

以 上

アーティスト
碇葉奈個展
A-LAB Exhibition Vol.50



古来日本の幽霊はこの世への情念を映し出す存在であり、怪談が創造され、形象を与えられてきました。尼崎ゆかりの近松門左衛門は人形浄瑠璃に怪談を生かし、人間の情念を巧みに描写します。幽霊が描かれてきた歴史には、目に見えない存在に託した人々の思いがありました。本展で紹介する碇葉奈は、現代における幽霊の表現を探求しています。日本画材、とくに白色顔料と透通素材を用いた表装の研究、そして自己への理解を深める

2026年2月7日(土)～3月29日(日)
午前10時～午後6時 火曜日休館
入場無料

アーティスト
碇葉奈個展
A-LAB Exhibition Vol.50

会 期 2026年2月7日(土)～3月29日(日)

開館時間 午前10時～午後6時

会場 A-LAB (えらぼ) 尼崎市西長洲町 2-33-1

休館日 火曜日

入場料 無料

主催 尼崎市

開催要旨

古来日本の幽霊はこの世への情念を映し出す存在であり、怪談が創造され、形象を与えられてきました。尼崎ゆかりの近松門左衛門は人形浄瑠璃に怪談を生かし、人間の情念を巧みに描写します。幽霊が描かれてきた歴史には、目に見えない存在に託した人々の思いがありました。本展で紹介する碇栞奈は、現代における幽霊の表現を探求しています。日本画材、とくに白色顔料と透過素材を用いた表装の研究、そして自己への理解を深めることで描く対象を顕らかにしてゆく試みです。日本画を継承し、古典の世界に詰め込まれた人々の営みを今に生かせるかは、私たち次第かもしれません。本展が私たちにとって見えていないもの、見ようとしてこなかったものを顧みる機会になることを願います。

関連資料展示

Room1にて日本画をより知ることのできる、絵具他の材料および模写作品をご覧いただけます。

関連イベント

トークイベント

日時：3月14日（土）午後2時～午後3時30分

松平莉奈氏（画家）をゲストに迎え、出展作家と「日本画における古典の定義」について話します。定員先着20人。

メール（amalove.a.lab@gmail.com）で申込必要。

イベント名、氏名、電話番号、参加人数を明記の上、お送りください。

広報用画像

このプレスリリースに掲載されている画像データ(※ 5 ~ 7 ページ参照)をプレス掲載用にご用意しております。下記の使用条件をご了承の上、A-LAB までお申し込みください。

使用条件 :

- ・広報画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを表示ください。
- ・トリミングや画像加工などはご遠慮ください。
- ・アーカイブのため、後日掲載紙、URL などをお送りください。

以上、ご協力の程、何卒よろしくお願ひいたします。

問い合わせ先

A-LAB (午前 10 時～午後 6 時 * 火曜日休館)

担当 : 田野、八木

電話 / FAX 06-7163-7108 メール amalove.a.lab@gmail.com

尼崎市文化振興課 (平日 : 午前 9 時～午後 5 時)

担当 : 田中、原田

電話 06-6489-6385 / FAX 06-6489-6702

作家略歴

■碇 葉奈（いかり かんな）

2000年 静岡県生まれ

2023年 京都芸術大学芸術学部美術工芸学科日本画コース 卒業

2024年 第34期公益財団法人佐藤国際文化育英財団 奨学生

2025年 京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻美術工芸領域日本画分野 修士課程 修了

2025年 第9期公益財団法人クマ財団 クリエイター奨学金 奨学生

現在、京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻 博士課程 在籍中



Photo by コムラマイ

私は現在、現世と常世の融合を研究・制作のテーマに、幽霊を始めとしたあわいに漂う“見えるけれど、見えない存在”的表現を探求しています。「あわい」とは、境界のあいだに生まれる曖昧で移ろう状態を指します。透過素材や反射素材、寒天引きによって生まれる虹色の輝きといった現象を用い、あわいに漂うものたちの“そこにいるようでいない、いないようでそこにいる”という曖昧な存在感を描き出したいと考えています。幽霊画の系譜を継ぎながら、現象と描写によって表現することで、見えぬものがふと立ち上がる瞬間を探り続けています。

【主な展覧会】

2023年 京都若手作家展「開く若芽」、ちいさいおうち、京都

2023年 13th 上賀茂神社アートプロジェクト、上賀茂神社境内、京都

2023年 第10回美術大学交流展、ちいさいおうち、京都

2023年 第52回装研会、京都府立文化芸術会館、京都

2023年 京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻（修士課程）1年生作品展「HOP 2023」、京都芸術大学 Galerie Aube、京都

2024年 大学院修士課程有志展「いちめんのなのはな」、京都芸術大学、京都

2024年 『春の讃歌展』Vol.10、東京九段耀画廊、東京

2024年 第8回京都学生アートオーケション、京都高島屋 S.C.[T8] 6階蔦屋書店 SHARE LOUNGE、京都

2024年 14th 上賀茂神社アートプロジェクト、上賀茂神社境内、京都

2024年 京都芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻（修士課程）2年生作品展「SPURT 2024」、京都芸術大学 Galerie Aube、京都

2024年 第53回装研会、京都府立文化芸術会館、京都

2024年 「Art for Gift」、梅軒画廊、京都

2025年 京都芸術大学岩泉ゼミ研究成果発表展「よるべを紡ぐ」、アートスペース余花庵、京都

2025年 個展「あわいがふれる」、KUNST ARZT、京都

【受賞】

2024年 第9回トリエンナーレ豊橋「星野眞吾賞展」入選

参考図版



1



2

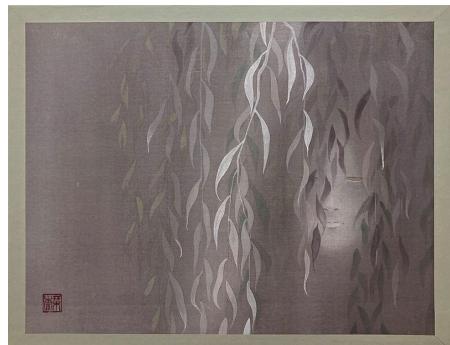


3-1



3-2

参考図版



4



5



6

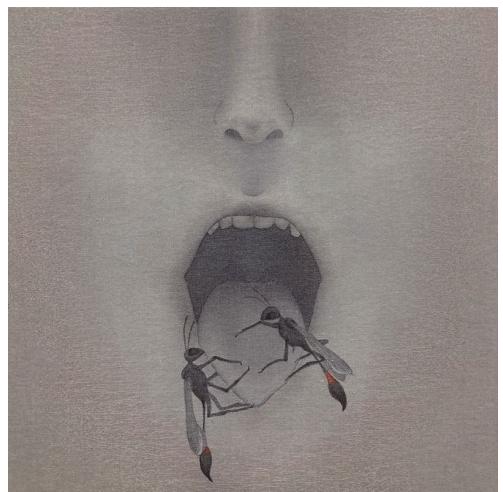


7

参考図版



8



9

10

参考図版

1. 持効型 | 2022 | 軸装

2. ほころび | 2023 | 軸装

3-1,3-2. 幽に夢見る | 2022 | 衝立 (裏打ちをしない太鼓張りによる二面構成)

4. 摺らぎが佇む - 霞 - | 2024 | 額装

5. 摺らぎが朧ぐ | 2023 | 軸装

6. 歪な無垢 | 2023 | 額装

7. すがる | 2024 | 額装

8. 幽明異境 | 2024 | 二曲一隻屏風

9. うらみの蠕動 | 2025 | 軸装

10. 館—わたしといふかたちの歪み— | 2024 | 額装

次回展

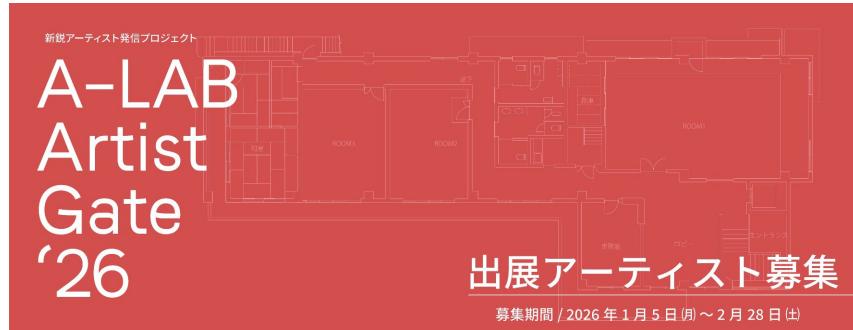
A-LAB Exhibition Vol.51 第3回白髪一雄現代美術賞受賞者

土屋咲瑛個展（仮）

2026年5月2日(土)～6月28日(日)（予定）

第3回白髪一雄現代美術賞を受賞した土屋咲瑛による個展。土屋は地図や文字による表現を通して、空間と個人の関係性を問い合わせ直す作品を発表してきました。今回の個展では、演劇用語の「第4の壁」に着想を得た新作を展示します。

お知らせ



A-LAB Exhibition Vol.53

A-LAB Artist Gate'26 出展アーティスト募集

出展アーティスト募集期間 : 2026年1月5日(月)～2月28日(土)

本プロジェクトは、今後活躍が期待される若手アーティストによるグループ展として毎年開催しているもので、11回目となる今回は令和8(2026)年の春に関西(大阪府・京都府・兵庫県・奈良県・滋賀県・和歌山県)の大学・専門学校を卒業予定、または大学院を修了予定の方を対象とします。平成28(2016)年に初開催して以来、これまで66人のアーティストを紹介してきました。本展が若手アーティストたちの本格的な作家活動の一歩となり、今後大きく羽ばたいていくことを期待します。

※ A-LAB Artist Gate'26

展覧会会期 : 2026年10月24日(土)～12月6日(日)（予定）



あれどもあらずともある

2026年2月7日(土) - 3月29日(日)

午前10時 - 午後6時 火曜日休館

入場無料



幽に夢見る | 2022

古来日本の幽霊はこの世への情念を映し出す存在であり、怪談が創造され、形象を与えられてきました。尼崎ゆかりの近松門左衛門は人形淨瑠璃に怪談を生かし、人間の情念を巧みに描写します。幽霊が描かれてきた歴史には、目に見えない存在に託した人々の思いがありました。本展で紹介する碇栞奈は、現代における幽霊の表現を探求しています。日本画材、とくに白色顔料と透過素材を用いた表装の研究、そして自己への理解を深める



すがる | 2024

関連資料展示

Room1にて日本画をより知ることのできる、絵具他の材料および模写作品をご覧いただけます。

トークイベント

3月14日(土)午後2時—3時半

松平莉奈氏(画家)をゲストに迎え、出展作家と「日本画における古典の意義」について話をします。

場所 | A-LAB 定員 | 先着20名

申込 | メールにて (amalove.a.lab@gmail.com)

※イベント名、氏名、電話番号、人数を明記してください。

住所 尼崎市西長洲町2-33-1

※会場に一般用駐車場はありません

問い合わせ先

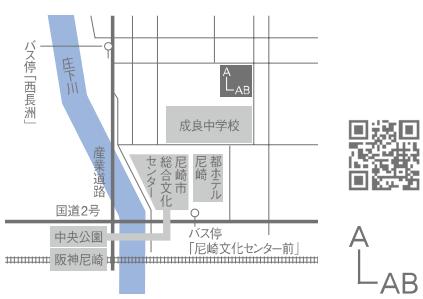
A-LAB TEL / FAX 06-7163-7108

尼崎市文化振興課

TEL 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

ama-a-lab.com

Facebook @amalove.a.lab Instagram @alab_amalove



出展作家 | 碇栞奈 IKARI Kanna



Photo: コムラマイ

私は現在、現世と常世の融合を研究・制作のテーマに、幽霊を始めとしたあわいに漂う“見えるけれど、見えない存在”的表現を探求しています。「あわい」とは、境界のあいだに生まれる曖昧で移ろう状態を指します。透過素材や反射素材、寒天引きによって生まれる虹色の輝きといった現象を用い、あわいに漂うものたちの“そこにいるようでいない、いないようでそこにいる”という曖昧な存在感を描き出したいと考えています。幽霊画の系譜を継ぎながら、現象と描写によって表現することで、見えぬものがふと立ち上がる瞬間を探り続けています。

2000年静岡県生まれ。2024年、第9回トリエンナーレ豊橋星野眞吾賞展入選、第34期公益財団法人佐藤国際文化育英財団奨学生。2025年、第9期公益財団法人クマ財団クリエイター奨学生奨学生、個展「あわいがふれる」(KUNST ARZT / 京都)。現在、京都芸術大学大学院芸術研究科博士課程に在学中。



幽に夢見る | 2022

ことで描く対象を穎らかにしてゆく試みです。日本画を継承し、古典の世界に詰め込まれた人々の営みを今に生かせるかは、私たち次第かもしません。本展が私たちにとって見えていないもの、見ようとしてこなかったものを顧みる機会になることを願います。